

たかが返事、されど返事 (30.1.29)

「はい」という返事の2文字が多くの人々の感動を誘うことがある。本校、生物環境工学科3年生 能美 柊介 君のそれである。

能美 君は、益田市内の書道教室で10年間、筆をしたためつづけている。「風光動四隣」(風光四隣に動く：風と日の光があたりを動かしている)の作品が益田市長賞に輝いた。その表彰式でのことである。「はい」という返事が会場の衆目を驚かせた。感動した審査委員長は最後の講評で、能見 君の名前を呼び、会場に集まった方々に「はい」という返事を再度、聞かせた。珍しい光景であろう。なぜ会場の人々は、能美 君の「はい」という二文字の声に大きく心を動かされたのだろうか。日常の中の非日常であったのかもしれない。「はい」の威力を大事にする個々人、学校でありたい。

